

JIS

UDC 621.315.37 : 693.54 : 696.6

C 3650

ケーブルのコンクリート直接埋設工法

JIS C 3650-1993

(1998 確認)

(2003 確認)

(2008 確認)

平成 5 年 7 月 1 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

主 務 大 臣：通商産業大臣 制定：昭和 51. 10. 1 改正：平成 5. 7. 1

官 報 公 示：平成 5. 7. 21

原案作成協力者：電気設備学会

審 議 部 会：日本工業標準調査会 電気部会（部会長 増田 閃一）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部電気規格課（☎ 100 東京都千代田区霞が関 1 丁目 3-1）へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

ケーブルのコンクリート直接埋設工法 C 3650-1993

Installation methods of cables embedded direct in concrete

1. **適用範囲** この規格は、600 V以下の低圧屋内配線において、公称断面積が14 mm²以下のケーブルをコンクリートに直接埋設(以下、直埋という。)する工法について規定する。

備考1. この規格の引用規格を、次に示す。

JIS C 3005 ゴム・プラスチック絶縁電線試験方法

JIS C 3102 電気用軟銅線

2. この附属書の中で{ }を付けて示してある単位及び数値は、従来単位によるものであって参考として併記したものである。

2. **用語の定義** この規格で用いる主な用語の定義は、次のとおりとする。

(1) **現場打ちコンクリート** 建設場所で建築く(軀)体そのものを直接打設するコンクリート。

(2) **PC部材** 養生温度が100 °C以下で生産されるプレキャストコンクリート部材で、PC部材製造工場で生産されたもの。

3. **ケーブルの種類** コンクリートに直埋するケーブルの種類は、**附属書**に示す600 Vコンクリート直埋用ケーブルとする。ただし、PC部材に直埋する場合は、絶縁体がビニルのものを使用する。

4. **設計** 設計に当たっては、次の各項によって行わなければならない。

(1) 配線の接続箇所はできるだけ少なくし、接続が容易にできる位置を選定する。

(2) PC部材では、回路構成をできるだけ同一部材内で行い、部材相互間の配線接続数が少なくなるようにする。

(3) 接地線が必要な場合は、接地線入りのものか、線心数を1本加えたケーブルを使用する。

(4) 建物の開口部・窓枠の付近、PC部材の割れ・欠けのおそれがある部分、溶接組立金物付近など、施工中ケーブルが外傷を受けるおそれがある部分の配線は避ける。

(5) 建物完成後の使用の際に温度が高くなると予想されるような部分の配線は避ける。

(6) 必要に応じて予備回路配線を行う。

5. **施工** 施工は、次によって行わなければならない(参考図1参照)。

(1) ケーブル相互の接続は、アウトレットボックス、ジョイントボックス又はキャビネット(以下、ボックス類という。)の内部で行い、接続部分を直接コンクリート内に埋め込まないこと。ただし、補修のとき、やむを得ず接続部分を埋設する場合は、接続部分を十分に絶縁処理し、ケーブルと同等以上の機械的保護を行えば、この限りでない。

(2) ケーブル配線と他のケーブル配線又は弱電流電線、金属製水管、ガス管などが直接接触しないようにする。

(3) ケーブルをコンクリート中に布設するときは、原則としてコンクリートのかぶりを3 cm以上とし、扉枠、窓枠、溶接組立金物類などから10 cm以上離して布設する。